

# 平成22年度 福岡市の環境施策実施状況等について



福岡市

# 目 次

## ア 循環型社会の構築

- ①平成22年度ごみ処理状況等 <P.2>
- ②施策の実施状況 <P.4>

## イ 温暖化対策の推進

- ①平成21年度温室効果ガス排出量 <P.11>
- ②施策の実施状況 <P.13>

## ウ その他の環境施策等

- ①平成22年度の環境監視の結果について<P.19>
- ②その他の環境施策の実施状況 <P.24>

## ア 循環型社会の構築

### ①平成22年度ごみ処理状況等

# 循環のまち・ふくおか基本計画

■策定：平成16年12月

■基本計画テーマ

「元気が持続する循環のまち・ふくおか」

■基本方針

循環型社会の構築に向けて

○ものの流れにおける各局面で、3Rの処理の優先順位に基づき、環境負荷を低減

○市民・事業者・行政のそれぞれが適切な役割を果たす社会の構築

■目標

目標年次：平成27年度

基準年次：平成14年度

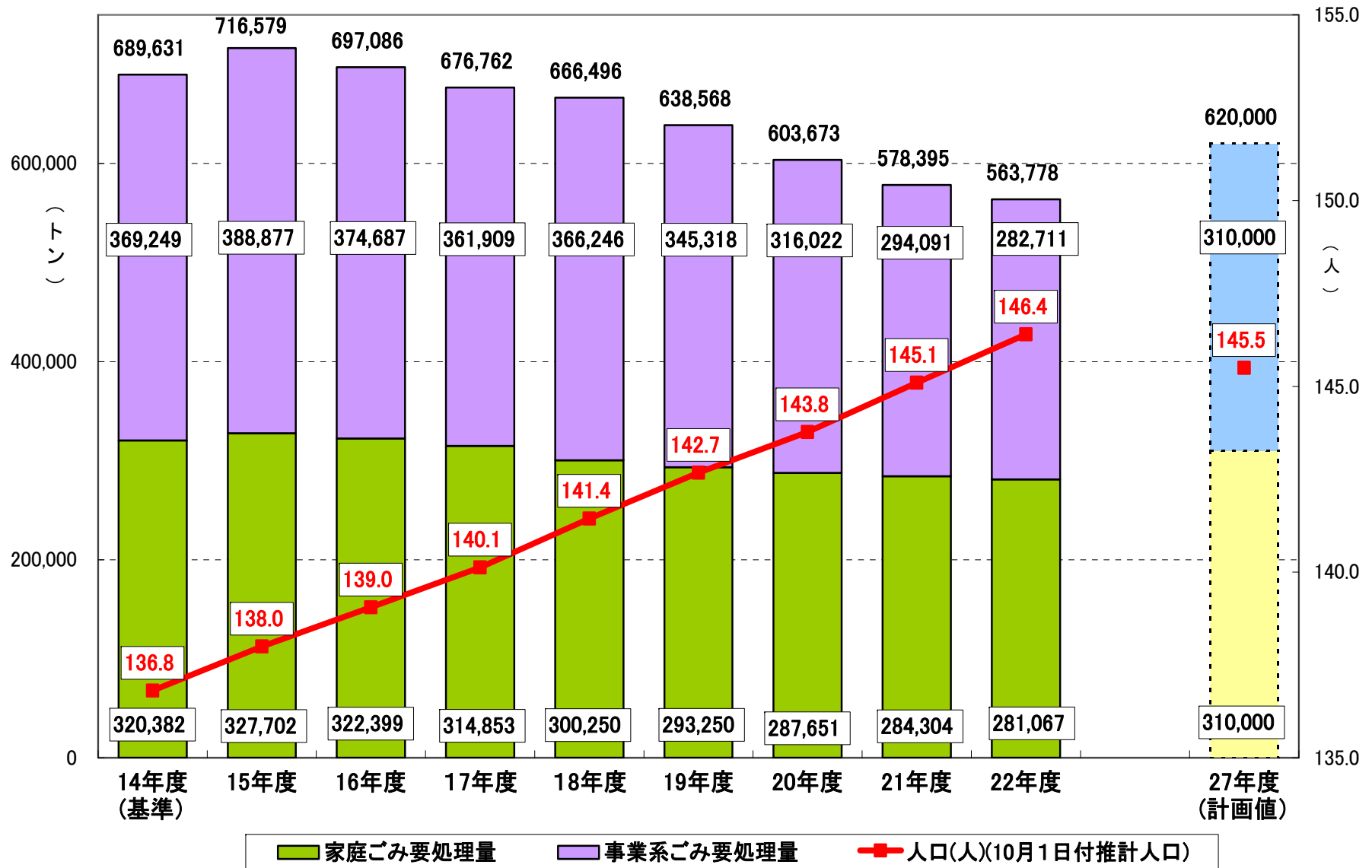
目標年次の目標値：○ごみ要処理量 62万トン(基準年次68.9万トンの10%減)

○ごみのリサイクル率 30%(基準年次15%の倍増)

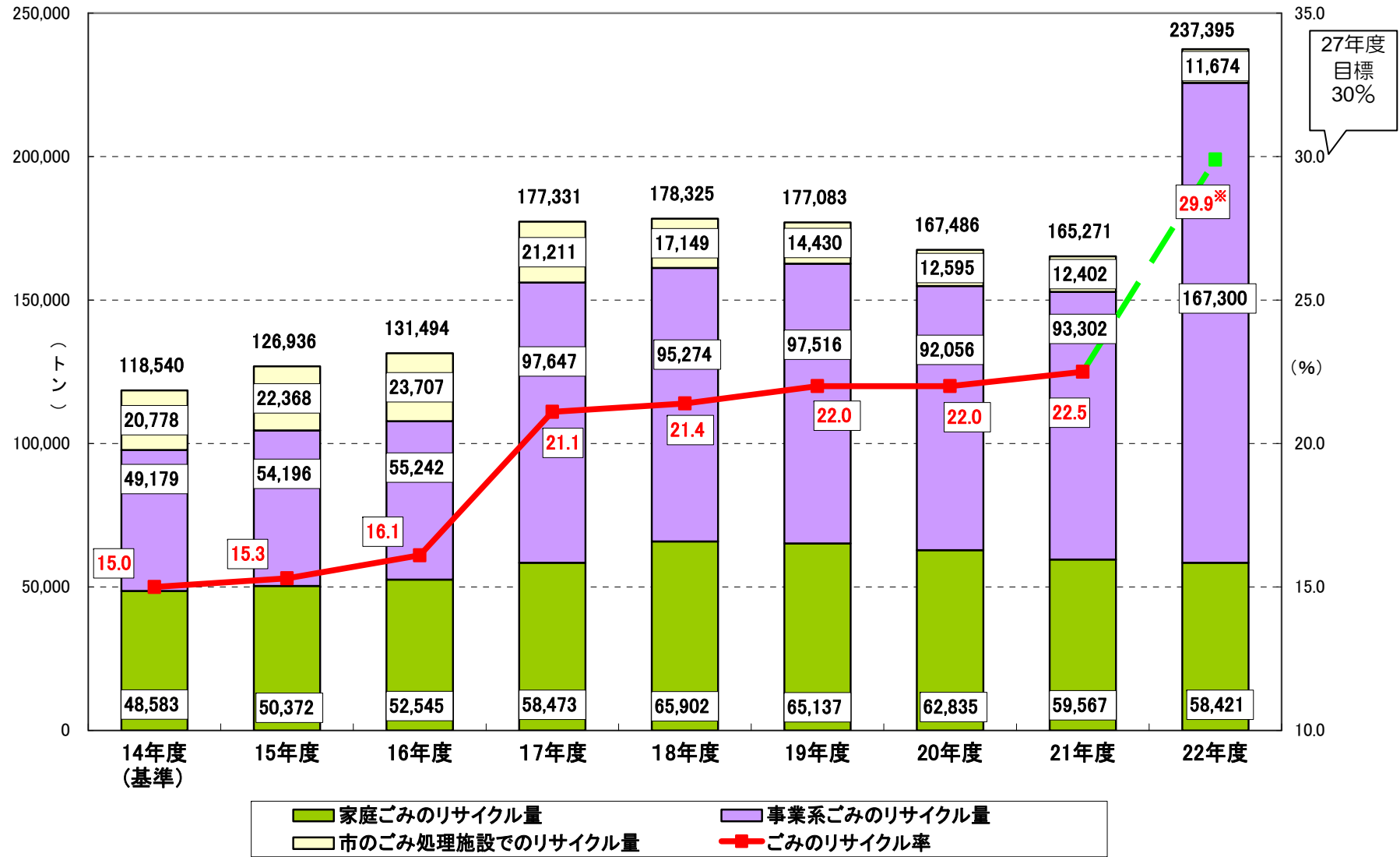
※「ごみ要処理量」とは、ごみ排出量のうち、資源物及び地震や水害などの罹災ごみ等を除いた量。

※「ごみのリサイクル率」とは、「ごみのリサイクル量」を「ごみ要処理量とごみのリサイクル量の合計」で除した割合。

# ごみ要処理量の推移



# ごみのリサイクル率の推移



※ 平成22年度より新たに把握できた小規模事業者等の古紙回収量を加算している。

# ア 循環型社会の構築

## ② 主な施策の実施状況

家庭系

## 3Rステーション事業



○市内3か所にある『3Rステーション』で、家具や衣類など、不用品を展示・提供。古着のリメイクなど、ごみ減量・リサイクルの各種講座を開催。

○平成22年度実績

不用品提供点数：224,403点

講座開催数：780回      参加者数：6,720人



臨海3Rステーション



西部3Rステーション



ミニ3Rステーション



# 家庭系

## 3R推進啓発事業 (レジ袋削減の取組み)



○リデュースの取組みとして、市民(マイバッグ推進ふくおか市民の会)・事業者・市の三者が協定を締結し、連携してレジ袋削減を推進している。

○協定参加事業者 (累計)

(平成23年3月末現在 : 27事業者469事業者)

	第1次 19年度	第2次 20年度	第3次 21年度
事業者数	16	24	27
店舗数	219	233	469

○毎年、事業者・市民団体・市が連携し、マイバッグキャンペーンを実施

<23年度>

- 5月 第4次協定参加事業者を募集
- 8月 マイバッグキャンペーンソングを公募・選定
- 10月 マイバッグキャンペーン実施



マイバッグキャンペーン

家庭系

## 古紙等の資源物回収



○地域集団回収を実施している団体に対する報奨金の交付や紙リサイクルボックス等の回収拠点の設置などにより、資源物回収・リサイクルを推進。

○平成22年度実績

資源物回収量：40,824トン

地域集団回収等実施団体：1,885団体

資源物回収拠点：484か所



家庭系



## レアメタルの資源化促進



回収ボックス(市内33か所)

使用済み小型電子機器には、金、銀、銅やレアメタルの貴重な資源が含まれており、都市鉱山として注目されている。



- ソニー株式会社が事業主体となって、市内のスーパーや大学等に回収ボックスを設置し、資源を製品の一部に活用する実証実験に取り組んでいる。(平成22年6月～)
- 回収品目：携帯電話、小型ゲーム機、デジタルカメラなど
- 回収実績(平成22年6月1日～3月31日)  
回収量：約900kg(約12,000個)

# 事業所ごみ減量指導



- 「特定事業用建築物」とは  
事業の用途に供される部分の延べ床面積が1,000㎡を超える建築物
- 「特定事業用建築物」の所有者等の責務
  - ・ 「廃棄物減量等推進責任者」の選任
  - ・ 「廃棄物の減量等に関する計画書」の提出
- 「特定事業用建築物」への立入検査

平成22年度実績	対象棟数	: 4, 346棟
	実施件数	: 1, 413件
	リサイクル率	: 47.2%

事業系



## 事業系古紙回収推進事業

関係業界との連携により中小事業所等の  
古紙のリサイクルを推進

対象：古紙回収に取り組んでいない中小の事業所等

平成22年度実績	回収量	:	3,307トン
	参加事業所数	:	3,845事業所

事業系

# 事業系食品廃棄物のリサイクル



平成21年度

「福岡市事業系食品循環資源リサイクル研究会」による報告書

平成22年度

報告書説明会の開催

食品循環資源再生利用モデル事業の開始



報告書説明会の様子



モデル事業における回収の様子



## 事業系ごみ対策の調査・検討

○事業系ごみの資源化推進検討委員会の設置(平成22年3月)

・学識経験者3名, 市議会議員6名, 事業者等8名の計17名で構成

・諮問事項

資源循環の方策

ごみ処理手数料のあり方

行政支援のあり方

○答申(平成22年12月)

・新たな資源化ルートを構築するなどの「資源循環策」

・ごみ減量とリサイクルに密接に関連する「ごみ処理手数料の改定」

・資源化に取り組む事業者への「行政支援策」

これら3施策を一体的に実施する環境づくりを行うことが重要！

事業系



## 福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド（基金）

### ○設置目的

「事業系ごみの資源化推進検討委員会」による答申を踏まえ、資源化に取り組む事業者への行政支援策として基金を設置

### ○積立て

- ・減免制度の段階的廃止に伴うごみ処理手数料収入相当額の33%を積立て
- ・積立総額は20億円以内

### ○設置期間

平成23年10月1日から平成37年度

### ○運営委員会の設置（平成23年8月3日）

基金を適正かつ効果的に活用していくために、客観的な立場で、基金の処分対象事業の選定や評価等を行うため、福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド運営委員会を設置

- ・委員構成 学識経験者5名，政策金融機関社員1名，行政2名の計8名



事業系

# 産業廃棄物の処理状況



**市内発生量 117万トン**

(平成21年度実績)

- ・コンクリートくず等 75万トン
  - ・無機性汚泥 14万トン
  - ・混合廃棄物 11万トン
  - ・有機性汚泥 6万トン
- 等

**市外から市内への**

**搬入量 25万トン**

(平成21年度実績)

- ・コンクリートくず等 16万トン
  - ・無機性汚泥 5万トン
  - ・廃プラスチック 1万トン
- 等

**市外処理量 63万トン**

**市内処理量 79万トン**

市内発生: 54万トン

市外発生: 25万トン



## 産業廃棄物排出事業者の監視・指導

○産業廃棄物の適正な処理を図るため、排出事業者への立入検査、指導を実施している。

○平成22年度立入件数実績: 1, 125件

多量排出事業者※1	17件
建設工事現場等	254件
PCB保管事業場	64件
アスベスト関連工事現場	78件
感染性産業廃棄物の排出事業所	20件
苦情等	34件
重点監視事業所等※2	658件

※1 前年度の産業廃棄物発生量が1,000t(特別管理産業廃棄物は50t)以上である事業場を設置している事業者

※2 過去に苦情等があり、継続して監視が必要と認めた事業所

事業系



## 産業廃棄物処理業者への監視・指導

○産業廃棄物の適正な処理を図るため、産業廃棄物処理業者等への立入検査、指導を実施している。

＜産業廃棄物処理業者等の数＞（平成23年4月1日現在）

収集運搬業	2,197
中間処理業	92
最終処分業	6
自動車リサイクル業	658

○平成22年度立入件数実績：765件



# 不法投棄防止対策

○昼夜の監視パトロールやカメラによる監視，地域の不法投棄防止活動団体への支援など監視体制の強化を図るとともに，警察等関係機関と連携を密にして不法投棄の防止，指導に努めている。

## 不法投棄処理実績

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
処理件数(件)	1,269	1,306	1,043	794	815
処理量(トン)	146	145	129	89	84



不法投棄の現場

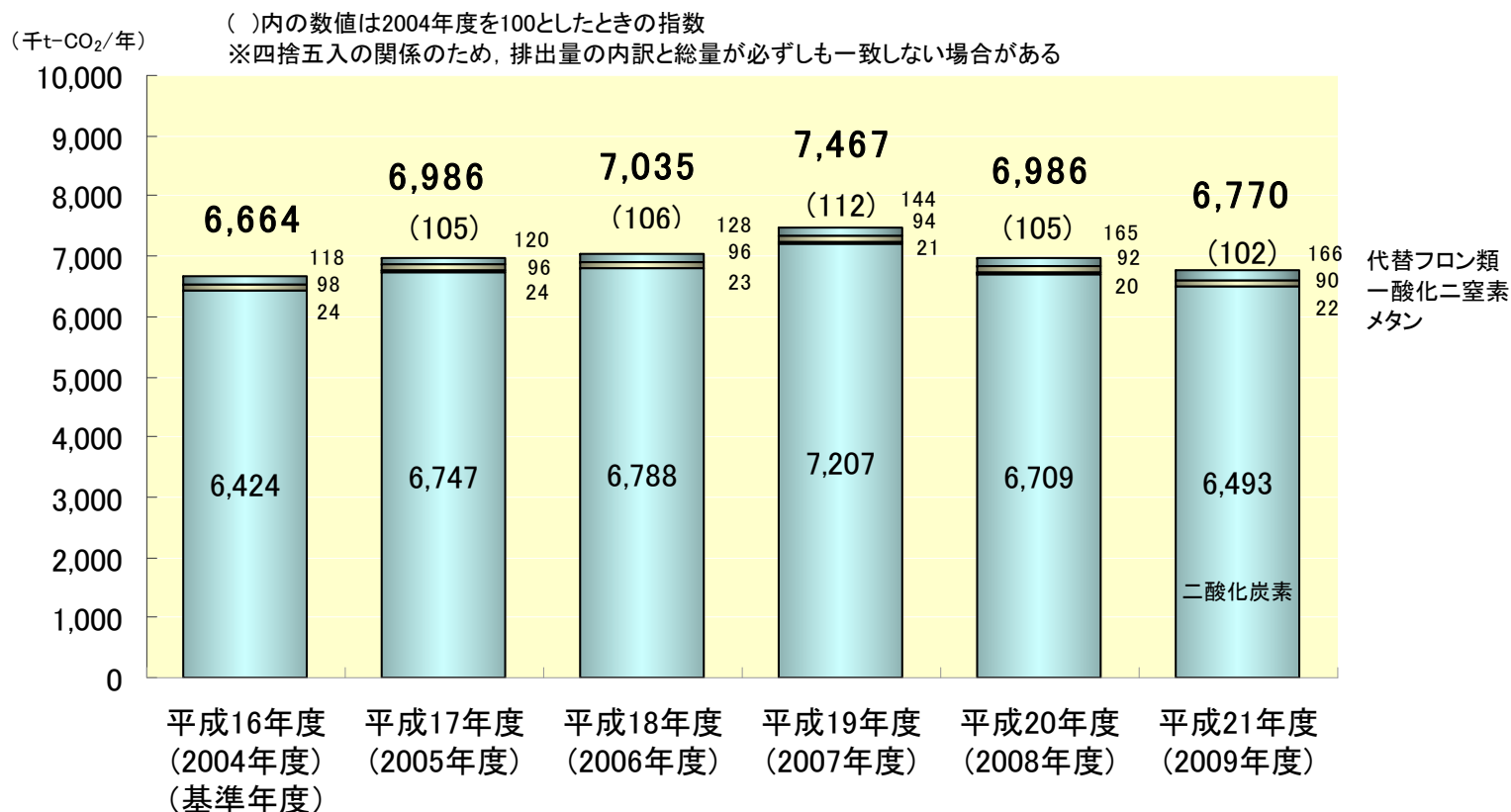


地域住民と連携してのパトロール

# 温暖化対策の推進

## ①平成21年度温室効果ガス排出量

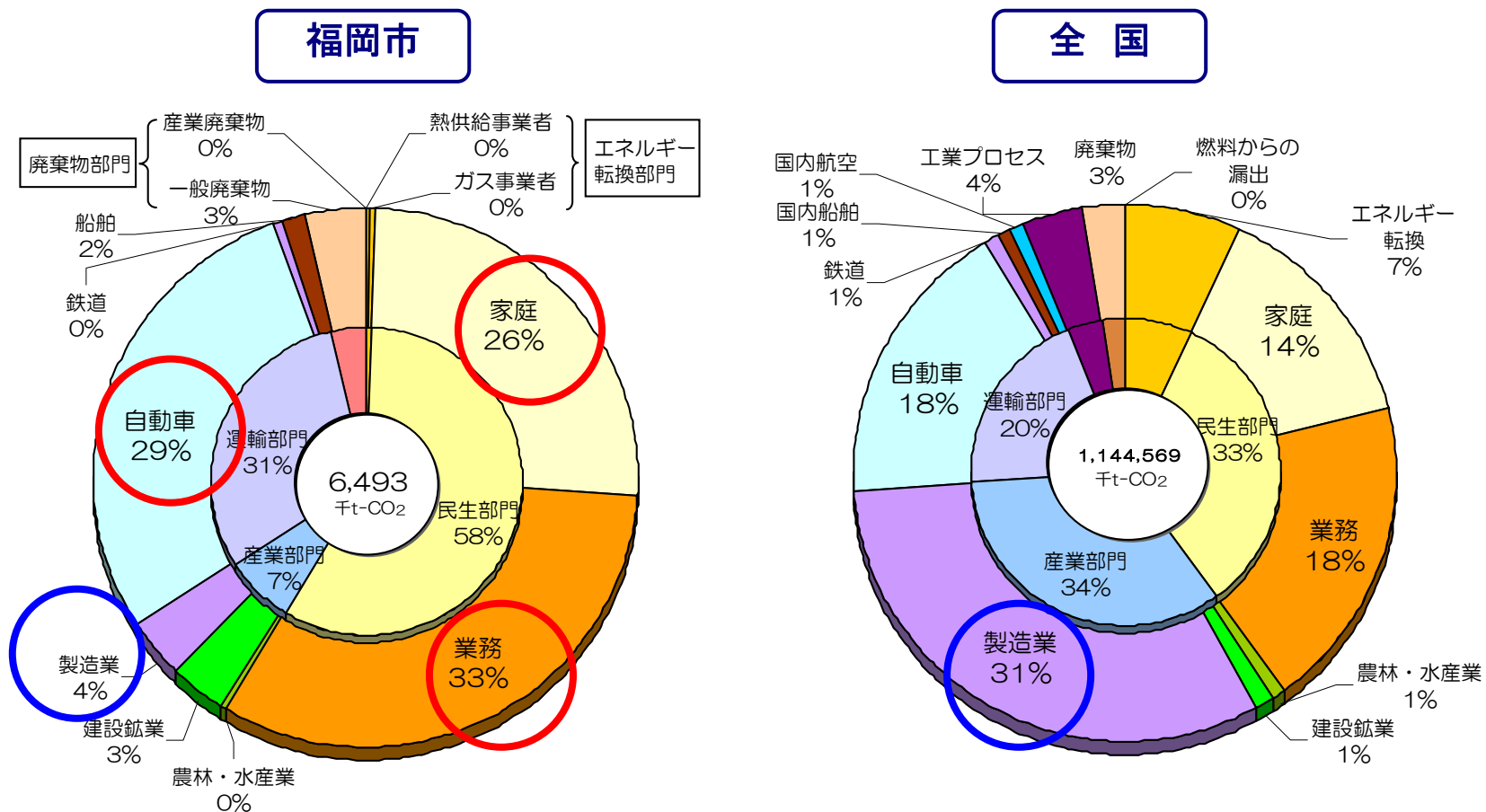
# 福岡市における温室効果ガス排出量の推移 (平成16年度～平成21年度)



**平成21年度の温室効果ガス排出量は、  
基準年度(平成16年度)と比べ、1.6%増加している。  
(前年度比3.1%減少)**

注) 平成21年度の電力の二酸化炭素排出係数は、電気事業者が海外から取得したCO<sub>2</sub>排出クレジット等を反映した調整後係数(0.348)を用いました。CO<sub>2</sub>排出クレジット等を反映しない実排出係数(0.369)を用いて算定した場合の温室効果ガス総排出量は6,964千t-CO<sub>2</sub>(H16年度比4.5%増、前年度比3.7%減)です。

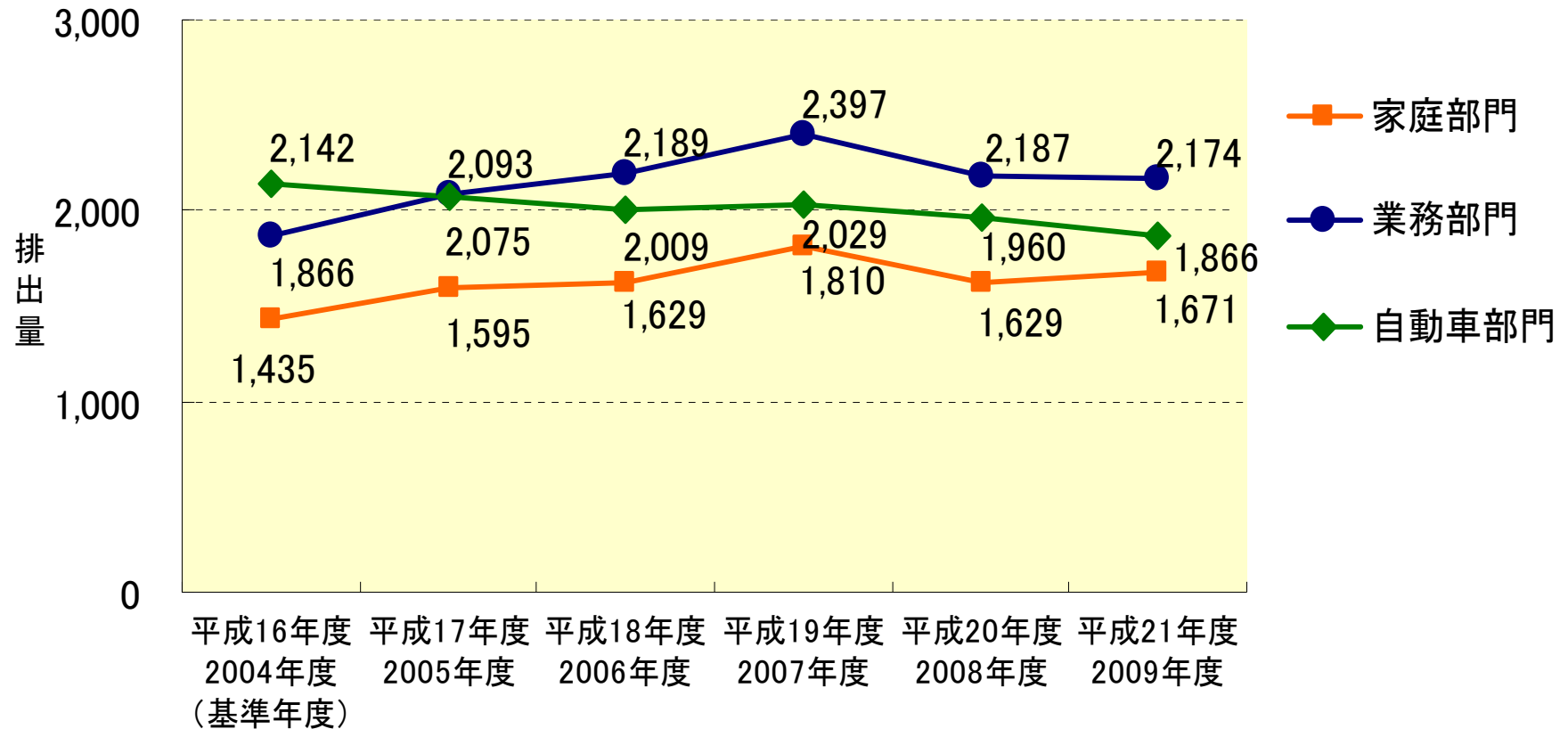
# 部門別二酸化炭素排出量（平成21年度）



重点3部門(家庭・業務・自動車)でCO<sub>2</sub>排出量全体の9割近くを占める。  
(全国は約5割)

# 重点部門別 二酸化炭素排出量の推移

(千t-CO<sub>2</sub>)



自動車部門は若干減少しており、業務部門と家庭部門は増加している。



# 福岡市地球温暖化対策地域推進計画 (第三次) の数値目標

	平成21年度 (2009年度)	平成20年度 (2008年度)
家庭部門: 世帯あたりの二酸化炭素排出量を <b>8%削減</b> する	→ 6.7%増	(5.7%増)
業務部門: 床面積あたりの二酸化炭素排出量を <b>14%削減</b> する	→ 8.8%増	(13.3%増)
自動車部門: 1台あたりの二酸化炭素排出量を <b>8%削減</b> する	→ 14.0%減	(9.4%減)

\* 基準年度 平成16年度(2004年度)

\* 目標年度 平成22年度(2010年度)

# 温暖化対策の推進

## ②施策の実施状況

# 温暖化対策の推進①

## 家庭部門への対策

### ○福岡市地球温暖化防止市民協議会を通じた取り組み

#### ・「地球温暖化防止シンポジウム2011」

【平成22年度実績】 アクロス福岡 イベントホール(H23.1.28開催)  
市民210名参加

#### ・グリーン商品展示会

【平成22年度実績】 環境フェスティバル出展(H22.10.23,24開催)  
市民1,524名参加



### ○地球温暖化問題に関する広報

#### ・出前講座

【平成22年度実績】 48回開催

※広報啓発DVDの作成・配布

(市内全小学校へ配布、市民等への貸出)

#### ・地球温暖化対策特集号の全戸配布

【平成22年度実績】 市政だより12/15号同時印刷物



## ○住宅用太陽光発電システム設置補助

市内の住宅用太陽光発電の設置に対して1件あたり10万円補助

【平成22年度実績】 補助件数:991件(募集件数1,000件)

※平成23年度は募集件数を1,500件に拡大(9月補正で500件追加)



住宅用太陽光発電システム

## ○家庭用燃料電池(通称:エネファーム)設置補助

【平成22年度実績】 補助件数:75件(1件あたり10万円補助)

※平成23年度は補助件数を100件に拡大



家庭用燃料電池

## ○住宅省エネ改修助成事業

国の「住宅エコポイント制度」を活用し、市内事業者に発注された省エネ改修工事を対象に住宅エコポイントの2/3を助成(上限10万円/件)

【平成22年度実績】 助成件数:858件

住宅省エネ改修の例



複層ガラス

## ○緑のカーテンによる市民への省エネ行動喚起

【平成22年度実績】 市民に身近な公民館等、162施設で実施

※平成23年度は保育所等約180施設に拡大



# 平成23年度における新規取組状況（家庭部門）

## ①ふくおか市民カーボンクレジット事業

参加者が家庭で取り組んだ省エネ行動で削減できた電気、都市ガス使用量を、二酸化炭素(CO2)に換算し、CO2削減量に応じて、交通ICカードのポイントとして参加者に交付する。

○参加世帯 約120世帯

○ポイント CO2削減量1kgごとに10円分のポイント付与(年間4,000円上限)

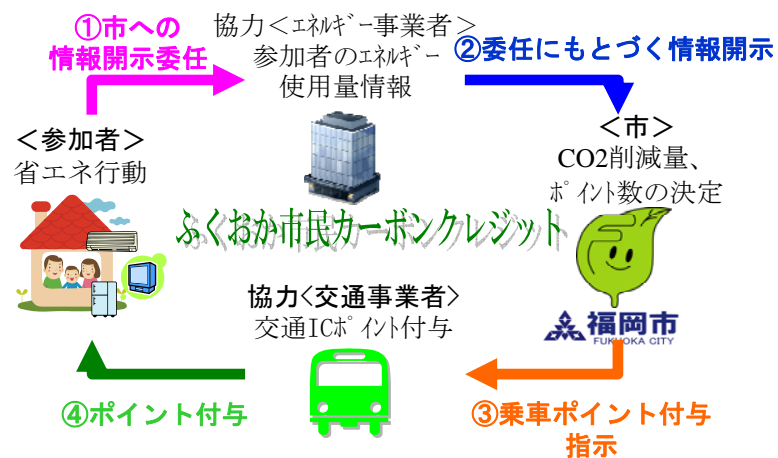


福岡市営地下鉄「はやかけん」



西日本鉄道(株)「ニモカ」

### 【市民カーボンクレジット事業の仕組み】



## ②緑のカーテンコンテスト

夏の省エネ対策として多くの市民や事業者の方に参加していただける緑のカーテンコンテストを実施。



# 温暖化対策の推進②

## 業務部門への対策

### ○エコ・ウェイブ・ふくおか会議運営支援

市内の主要な事業者が牽引者となり、事業者自らが温暖化対策への取り組みの波を起こし、他の事業者や市民へ行動の波を広げていく同会議の運営を支援。

【平成22年度実績】 エコ・ウェイブ・ふくおか会議(H22.7.27開催)



#### <行動宣言2011(抜粋)>

- ・私たちは、エコスタイル(クールビズ・ウォームビズ)を推進し、オフィスの冷暖房は、適正な設定温度を守ります
- ・私たちは、休み時間のオフィスの消灯やパソコンの電源オフなど、省エネに心がけます
- ・私たちは、業務用車両のエコドライブに心がけるとともに、公共交通機関の利用を推進します
- ・私たちは、できる限り階段を利用し、或いは、相乗りするなど、エレベーターの効率的な利用に努めます
- ・私たちは、このような節電・省エネ、温暖化防止に取り組む意識や行動を、私たちの家族、グループ会社や関連団体にも広げていきます

座長:福岡大学法学部 浅野 直人教授

参加団体:市内の事業者大学など18団体

### ○事業所省エネ改修等支援事業

市内に主たる事業所を有する中小企業者等で、複合的又は一体的に実施される、既設事業所の省エネルギー設備導入や改修工事等の費用の1/3を助成(上限500万円/件)

【平成22年度実績】 補助金支払い件数:30件

# 平成23年度における新規取組状況（業務部門）

## ○事業所ソフトESCO導入支援事業

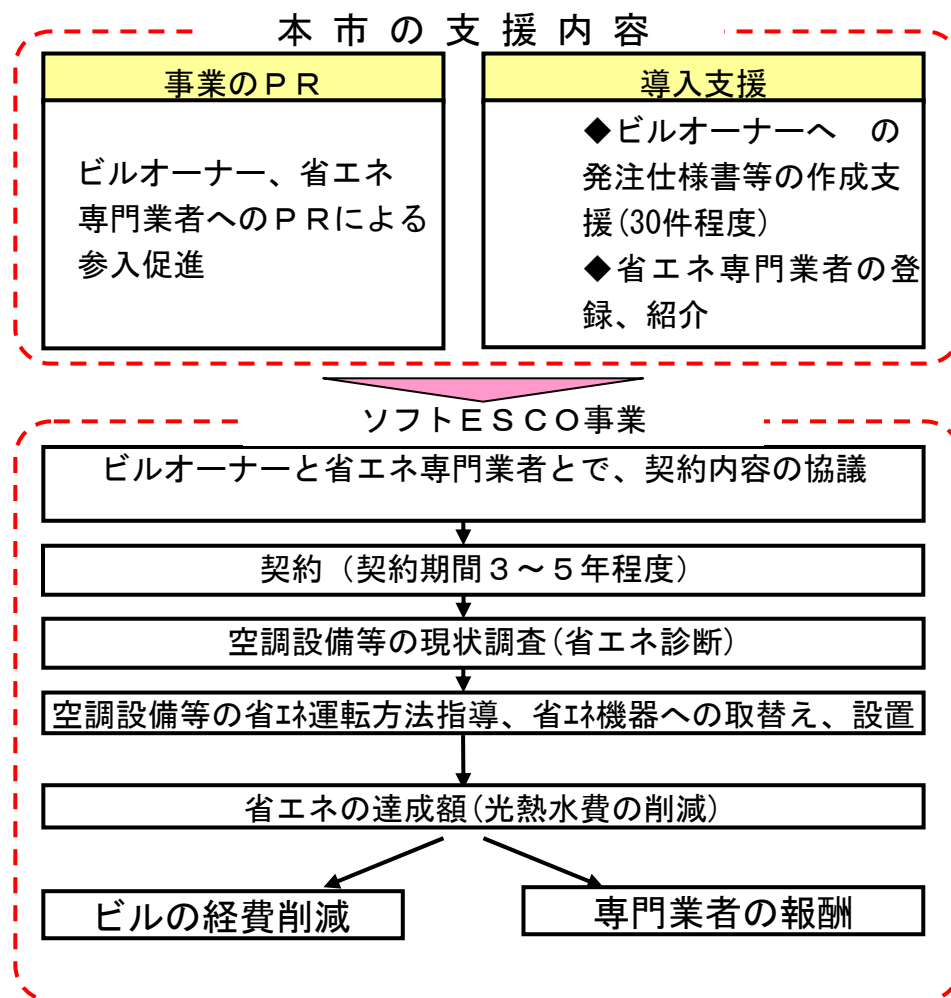
ソフトESCO事業の民間施設への普及促進を図るため、事業導入に必要な支援を行う。

- ・事業のPR
- ・導入への支援

※「ソフトESCO事業」

ビルオーナーが省エネ専門業者の指導に基づき、省エネ化を図り、削減された光熱水費の一定割合を報酬として専門業者に支払う仕組み。

事業所ソフトESCO導入支援事業の流れ



# 温暖化対策の推進③

## 自動車部門への対策

### ○低公害車の普及促進

#### ・電気自動車購入等補助

電気自動車の購入1台あたり本体価格の5%以内(上限20万円)を補助

【平成22年度実績】 補助件数:31件

充電設備の設置等に要した費用の1/2以内を補助

【平成22年度実績】 補助件数:7件

#### ・エコカー展示・試乗会

【平成22年度実績】 環境フェスティバル出展(H22.10.23,24開催)

試乗者:205名





## ○次世代自動車の普及促進

- ・次世代自動車普及促進検討会の開催、福岡市次世代自動車普及促進ビジョンの公表  
【平成22年度実績】 6月、8月、11月、3月 計4回開催

委員：学識経験者、行政機関、自動車メーカー、  
九州電力、報道機関



## ○ノーマイカーデーの推進

- ・ノーマイカーデー1日乗車券の販売
- ・駐輪場無料化, 市内事業所(約650社)への文書による協力依頼

<参考>

【平成22年度実績】 地下鉄販売枚数 399,987枚(小児・割引含む),  
西鉄バス販売枚数 19,048枚



※平成23年度からは、祝・祭日を除く全ての平日を

「ノーマイカーウィークデー」として 不要不急のマイカー使用自粛の啓発実施

# 平成23年度における新規取組状況（自動車部門）

## ○市庁用車を活用したEVカーシェアリング

市庁用車のEVを活用し、業務に使用していない土日祝日に、市民が自分で運転してEVの良さを体感（試乗）できるEVカーシェアリングを市内4カ所を実施

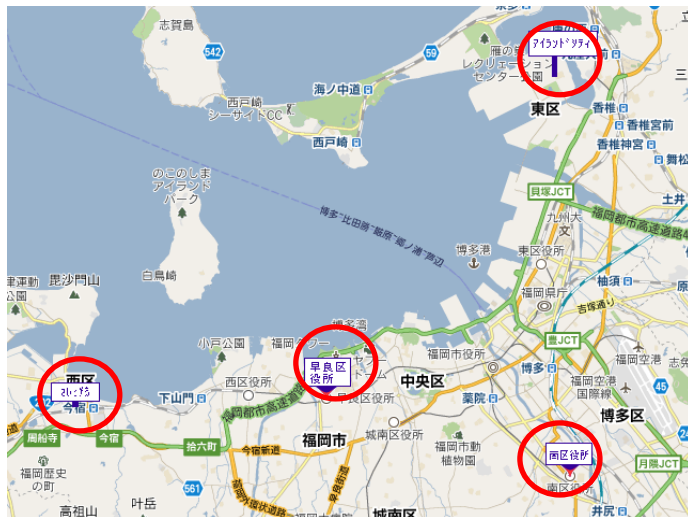
【実施期間】平成23年7月23日から平成23年11月27日まで

【実施場所】東 区：アイランドシティ内駐車場（東区香椎照葉3丁目1番）

南 区：南区役所（南区塩原3丁目25番1号）

早良区：早良区役所（早良区百道2丁目1番1号）

西 区：さいとぴあ（西部出張所）（西区大字女原607番地1）



「さいとぴあ」ステーション

# 温暖化対策の推進④

## 事業者としての取り組み

### エネルギー使用量の削減

#### 【平成22年度実績】

- ・冷暖房の設定温度徹底等を初めとする庁舎管理者等による省エネ
- ・職員のエコスタイルなど

#### 【平成23年度の取り組み】

- ・3月の東日本大震災及び福島原発事故等の影響に対応するため、省エネ推進会議の設置、省エネ対策重点項目等の設定、エコスタイル(クールビズ)の早期実施(5月16日～10月31日)等の全庁的取組を周知、徹底して実施

### 庁用自動車等のCO2排出量の削減

- ・市庁用車への電気自動車導入 累計9台

【平成22年度実績】 1台(日産 リーフ)

- ・庁用車における低公害車等の導入率  
60.0% (686台/1,144台)



電気自動車(日産 リーフ)

# 温暖化対策の推進④

## 事業者としての取り組み

### 市施設への新エネルギー率先導入

- ・太陽光発電システム 累計119箇所設置、出力合計1156.7kW  
【平成22年度実績】公民館・学校等 21箇所設置、出力合計183kW
- ・高効率風力発電システム「風レンズ風車」  
累計2箇所、4基設置、出力合計12kW

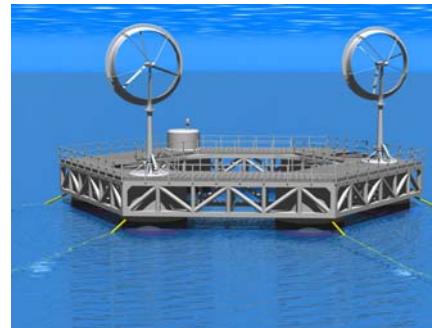
※平成23年度

「もーもーらんど油山牧場」に1基設置予定

九州大学が実施する「博多湾浮体式海上風力発電」実証実験に協力



浮体式海上風力発電実施場所



浮体設備イメージ図



風レンズ風車

## その他の環境施策等

### ①平成22年度の環境監視の結果

# 大気質の状況（平成22年度）

●大気環境基準達成状況

測定局	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質
一般環境大気測定局（8局）	香椎	○		×	×	—
	東	○		×	×	
	吉塚	○	○		×	×
	市役所	○	○		×	×
	南		○		×	○
	長尾		○		×	○
	祖原	○	○		×	×
	元岡		○		×	×
自動車排出ガス測定局（8局）	千鳥橋		○		×	
	比恵		○		×	
	天神	○	○	○	×	
	大橋		○		○	—
	別府橋		○		○	
	西新		○		×	○
	新西		○		×	○
今宿		○			×	

測定地点図

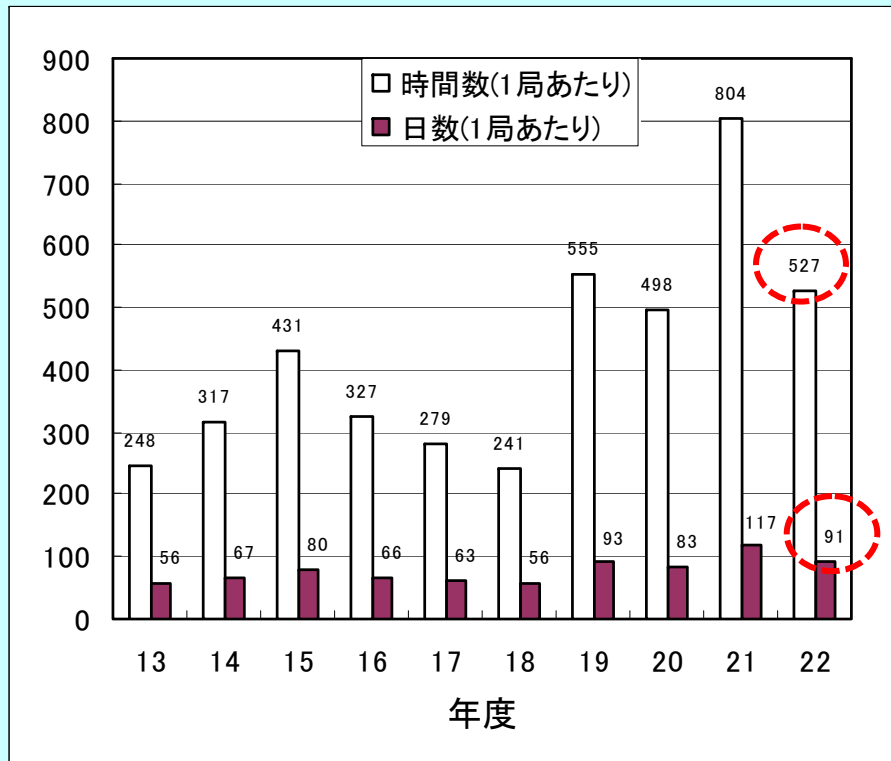


凡例

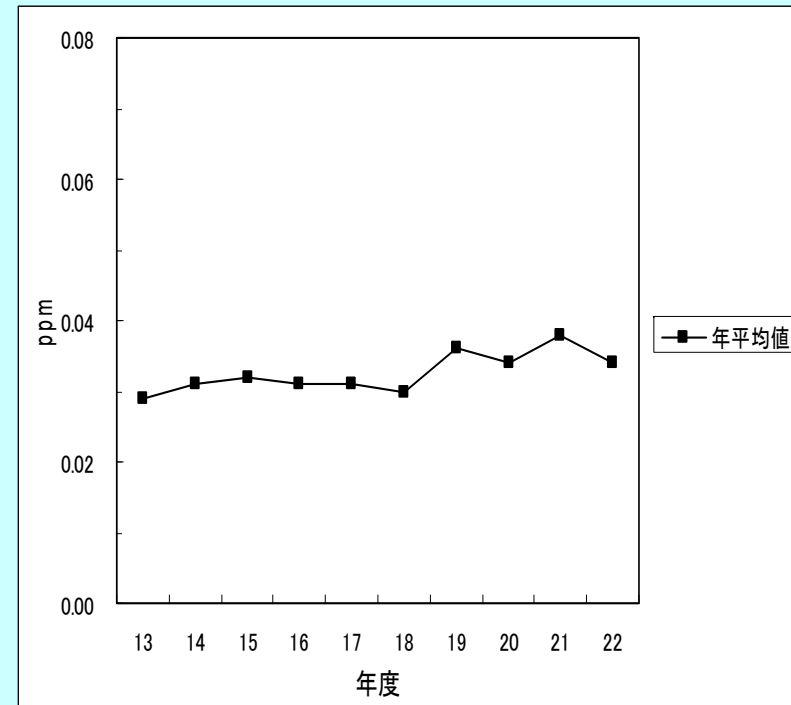
- 一般環境大気測定局
- 自動車排出ガス測定局

○:達成  
 ×:非達成  
 —:評価対象外

# 光化学オキシダントの経年変化



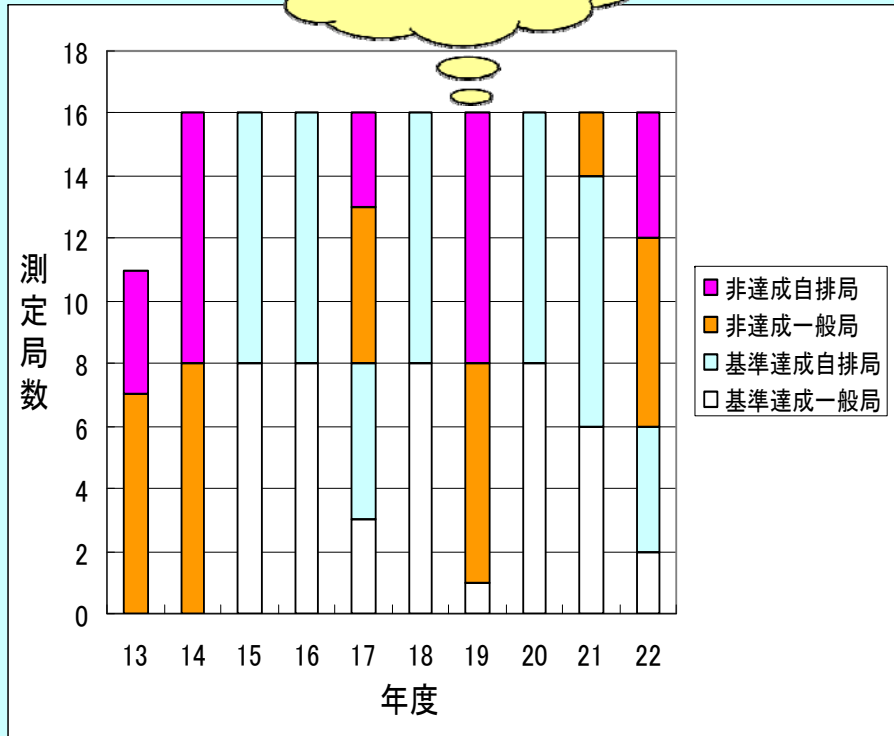
1年間で昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数・日数(測定局1局あたり)



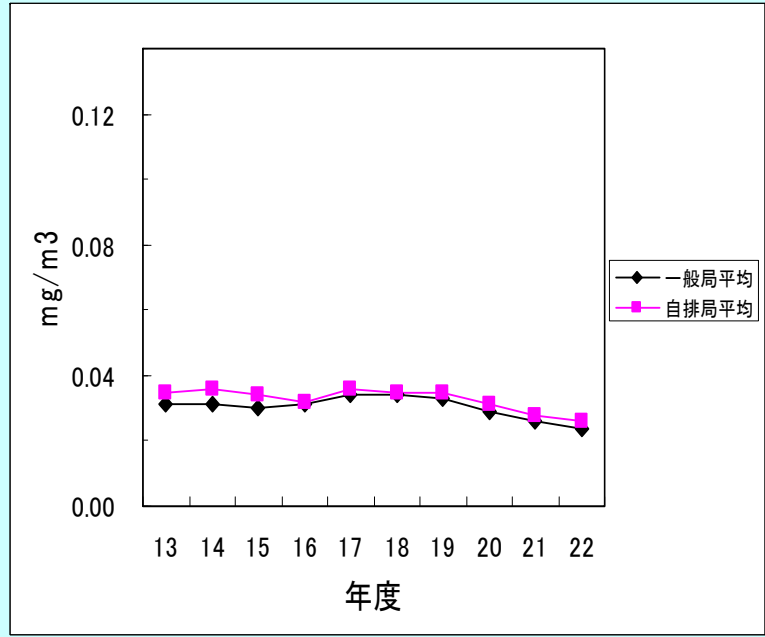
昼間の1時間値の年平均値の推移

# 浮遊粒子状物質の経年変化

黄砂の影響



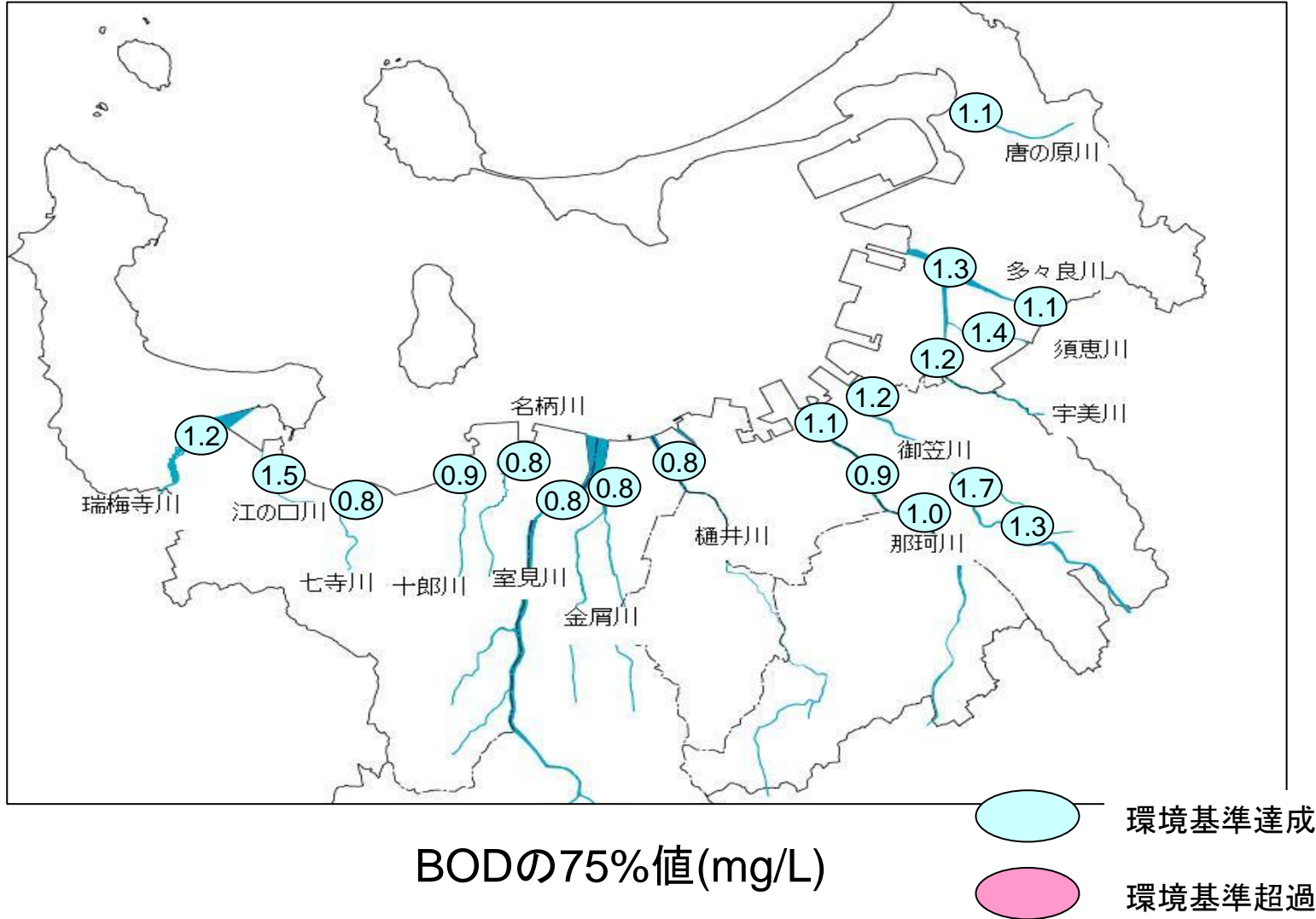
浮遊粒子状物質の  
環境基準達成状況の推移



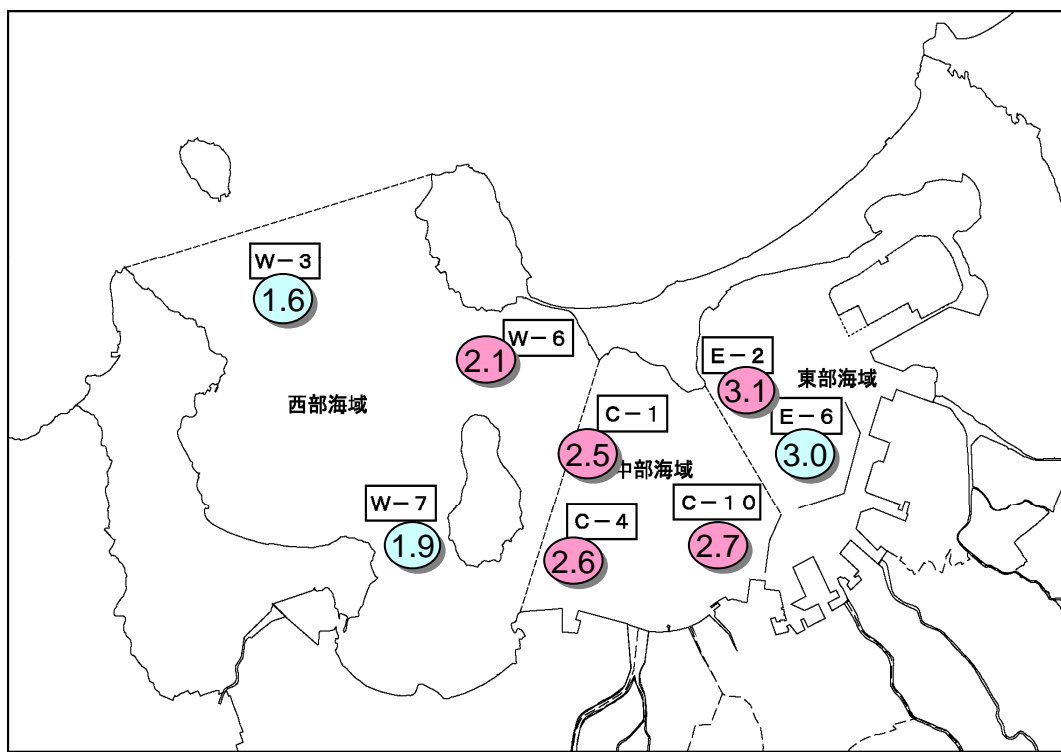
浮遊粒子状物質の年平均値の推移



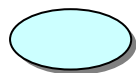
# 河川水質 (BOD)



# 博多湾水質（COD）の状況



CODの75%値 (mg/L)

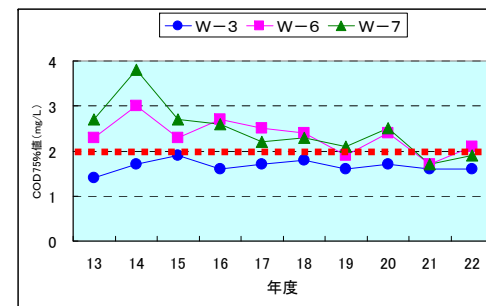


環境基準達成

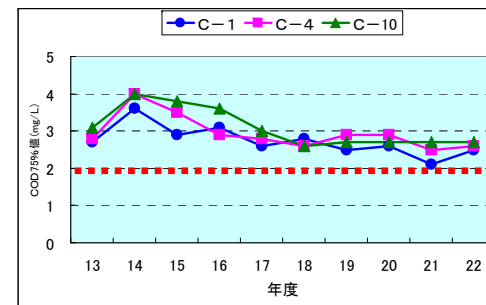


環境基準超過

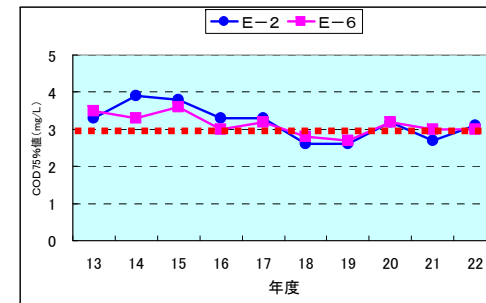
西部海域



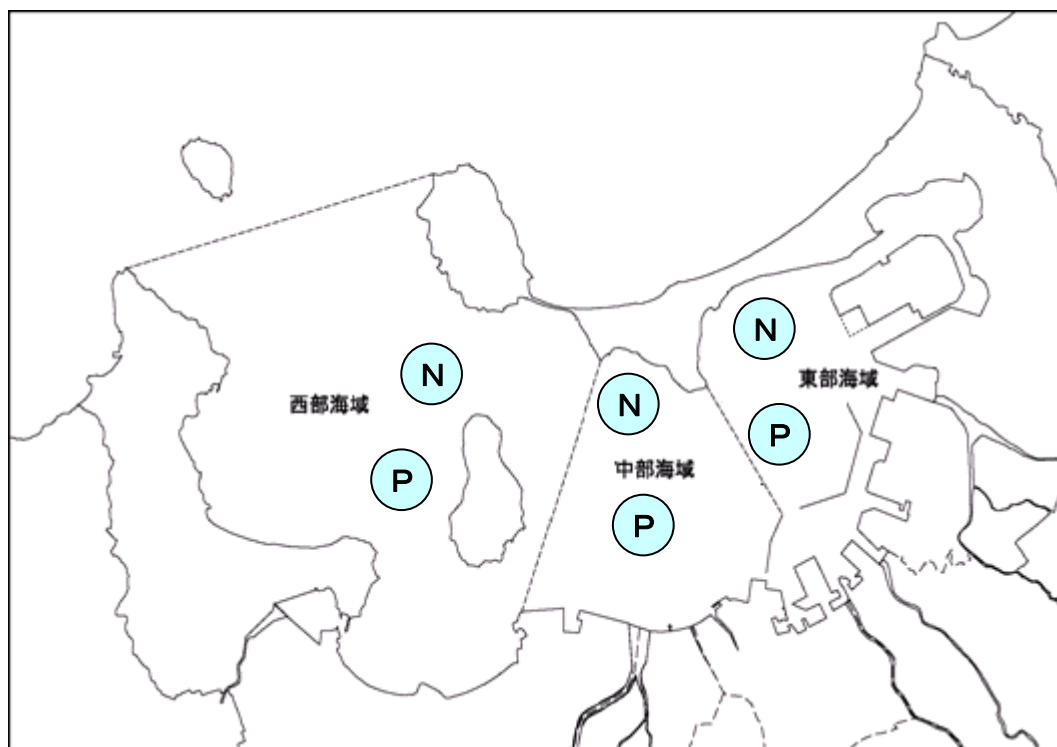
中部海域



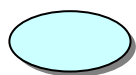
東部海域



# 博多湾水質（全窒素，全りん）の状況



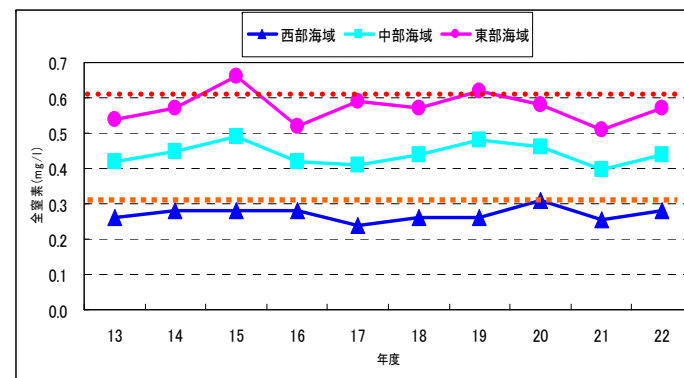
全窒素(N)と全りん(P)の年平均



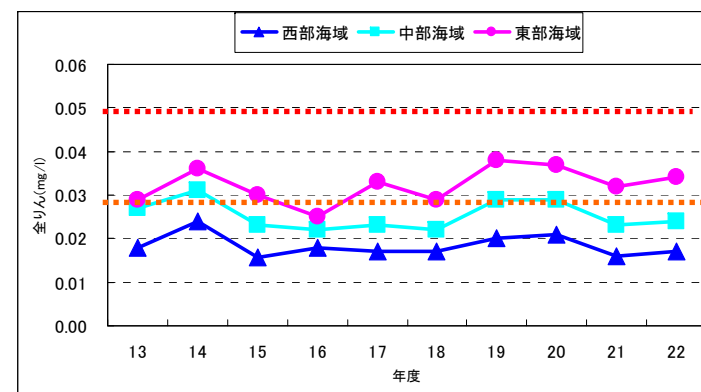
環境基準達成



環境基準超過



全窒素の経年変化



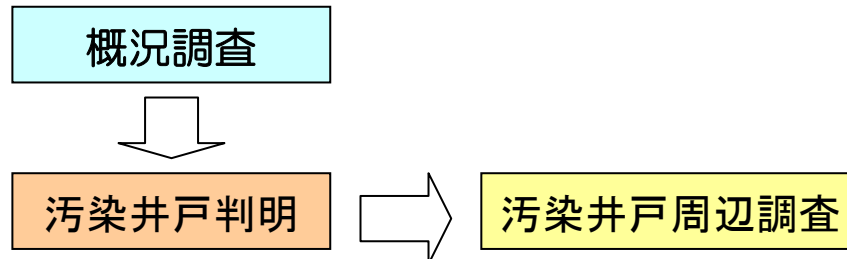
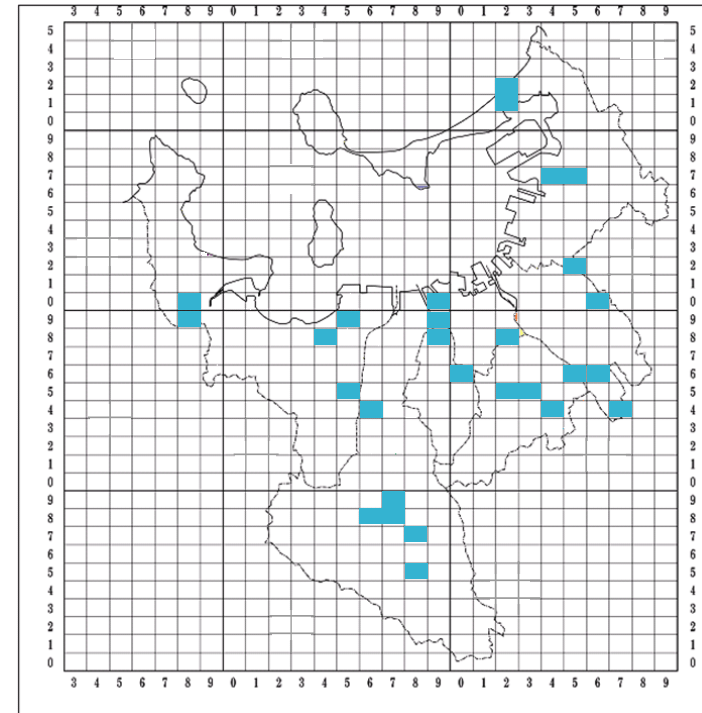
全りんの経年変化

# 地下水質の状況

●地下水質調査結果総括表  
(平成22年度)

調査区分	調査井戸数	延調査井戸数	基準超過井戸数	環境基準超過項目 内訳(延べ数)		
				重金属等	有機化合物 揮発性	その他
概況調査	28	28	4	2	0	2
汚染井戸周辺調査	15	15	2	1	0	1
継続監視調査	24	46	9	0	16	0
その他の調査	3	3	0	0	0	0
合計	70	92	15	3	16	3

●平成22年度概況調査地点メッシュ



# 自動車騒音の状況

## 自動車騒音の面的評価



市内170区間、沿道両側50mの範囲にある住居等について評価

区分	H17	H18	H19	H20	H21	H22
昼夜とも基準値以下	80.1	83.5	85.8	87.0	89.5	91.2
昼のみ基準値以下	10.7	8.8	8.1	7.5	6.7	5.8
夜のみ基準値以下	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0
昼夜とも基準値超過	9.0	7.5	6.0	5.4	3.6	2.9

平成22年度 自動車騒音環境基準達成状況



# 化学物質の状況

## ○ダイオキシン類

大気、水質、地下水、土壌とも、それぞれ環境基準値以下でした。

## ○有害大気汚染物質

ベンゼンなど19項目について市内4地点で、毎月1回調査を実施し、全調査地点とも環境基準値又は指針値(定めがある項目については)以下でした。

## ○アスベスト

市内5地域で、一般環境の調査を実施し、測定結果は0.06～0.10本/Lの範囲であり、世界保健機構の「環境保健クライテリア53(1986)」の数値(1～10本/L)と比べて低い値でした。

## ○環境ホルモン

主要河川14地点、博多湾3地点で、ノニルフェノール、4-*t*-オクチルフェノール、ビスフェノールA及びop(オルト・パラ)-DDTの調査を実施し、測定結果は全ての地点で魚類に対する予測無影響濃度以下でした。

## その他の環境施策等

### ②その他の環境施策の実施状況

# 自然環境の保全①

## ○自然環境調査

(目的)

自然環境の現状を把握し、保全・創造施策への基礎資料とする

(調査対象)

鳥類, 昆虫類, 貴重植物, 貴重種魚類



クロツラヘラサギ (今津)



アサギマダラ (油山)



# 自然環境の保全②

## ○カブトガニの保全

### 今津干潟のカブトガニ産卵場整備

地域・大学等と共働で産卵場の整備の実施。

- ①砂入れ，粗朶柵の設置
- ②カブトガニ産卵状況調査



砂入れ



粗朶柵



カブトガニの卵塊

# 自然環境の保全③

## 博多湾環境保全対策の推進

「生物が生まれ育つ博多湾」の実現に向け、  
博多湾の水質保全,自然環境の保全・再生・創造の推進。

### ◆博多湾環境保全計画推進委員会(2回開催)

- ・施策の効果検証や課題対応策の検討

### ◆博多湾環境保全計画に係るモニタリング調査

- ・貧酸素発生状況調査 ・藻場の調査(大学と連携)
- ・生物指標調査(底生生物・アサリ・カブトガニ)

### ◆博多湾生物環境保全対策の検討

- ・貧酸素発生抑制の検討

# 自然環境の保全④

## エコアップ活動の実施

市民参加による緑地保全活動(エコアップ活動)を東平尾公園で実施。

第1回(11/13):「生きものを見つけてみよう！」

第2回(12/12):「生きものの居場所づくり」

第3回(2/26):「居場所は怎么样了？」



落ち葉や落ち枝などを集めた堆肥ヤード

# 市民・事業者・NPO等との連携の促進①

## 環境フェスティバルふくおか 等

### ○環境フェスティバルふくおか

- ・平成22年10月23日・24日
- ・来場者数約37,000人
- ・出展団体50団体

※今年度は10月22日・23日に実施予定



### ○環境啓発U-30事業

- ・学生3団体と共働で若年層への啓発を実施

※今年度は学生団体による環境活動発表会を開催



# 市民・事業者・NPO等との連携の促進②

## 福岡市環境行動賞

### ○福岡市環境行動賞(平成19年度創設)

福岡市の環境保全へ顕著な貢献があった個人・団体・事業者・学校を表彰

・平成22年11月4日に表彰式を開催 ※今年度は11月15日に表彰式を開催予定

各年度の表彰者

項 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
大 賞	NPOクリーンふくおかの会	該当なし	福岡市立特別支援学校 博多高等学園
最優秀賞	(個人) 古賀美子さん	結城 勉さん	山崎 一さん
	(団体) 城南区さわやかなの会	NPO法人グリーンヘルパーの会	小呂女性部
	(事業者) (株)西鉄シティホテル	(株)博多大丸	該当なし
	(学校) 内野小学校	南当仁小学校	福岡県立筑前高等学校

# 地域発意事業の支援・促進

## エコ発する事業

### ○エコ発する事業

市民団体やNPO法人などが自ら発意・企画し、主体的に行う環境活動の支援やネットワークづくりを促進。

・対象分野 ①ごみ減量・リサイクル, ②環境学習・啓発,  
③環境保全, ④環境美化 等

平成22年度 32団体助成(今年度は18団体)

### ※やる気応援事業

平成22年度 5団体助成(平成22年度で事業終了)

# 地域の環境保全活動を担う人材の育成

## 市民を対象とした講座の開催

### ○環境保全活動リーダー講座

環境を考え感じる心，行動の裏づけとなる知識，人に思いを伝え広げるための技術を有した人材を育成するための環境講座を実施。

11回開催 延べ111名参加

### ○環境を知る講座

市民や市内通勤・通学者を対象に，全4回の環境講座を実施。

4回開催 延べ183名参加

# 広域的な連携及び取組の促進

## ラブアース・クリーンアップ事業

○平成22年6月6日実施

【福岡市】

参加人数 約3万6千人

ごみ回収量 約 243トン

【九州山口各県合計】

参加人数 約 71万人

ごみ回収量 約1,500トン

※平成23年度は開催日(6月12日)が  
荒天のため中止





# 国際環境協力の推進①

## アジア太平洋地域を対象とした研修生受入

廃棄物埋立技術「福岡方式」を学ぶ研修生の受け入れ

- ・研修生 ベトナム国 3名
- ・見学者 中国等 47ヶ国 203名

【平成22年度実績】

## 「福岡方式」の普及を含めた環境分野の技術協力協定

中国の清華大学と技術協力協定を締結

平成22年の上海国際博覧会において、清華大学、福岡大学とともに「福岡方式」に関する講演を実施

# 国際環境協力の推進②

## アジア太平洋地域を対象とした専門家派遣

### ベトナム国ハイフォン市へ職員を派遣[H23.8]

- ・「福岡方式」に関するセミナー実施
- ・埋立場のモデルサイト建設の技術指導



※本年7月の国連CDM理事会において、「福岡方式」による既存埋立場の改善（メタンガスの発生抑制）が、カーボンクレジットの対象となる新たな手法として認定されました。